

びわ湖東北部地域連携協議会 事業計画 (2023年度)

2023年6月制定

びわ湖東北部地域における学術文化教育基盤形成を目的とした
大学・短期大学・地域連携プラットフォーム

1. びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業概要

滋賀県内のびわ湖東北部地域においては、個々の大学・短期大学と自治体・経済産業界等との間で様々な連携・協働が試みられ、一定の成果を上げている。今後さらにびわ湖東北部地域の活性化のためには、これまでの連携・協働をより発展させ、社会の持続可能な開発目標である SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」を活用しながら、これまで以上に自治体や経済産業界等との緊密な協働と情報共有のもと、各校の特徴と強みを発揮し、総合的かつ多面的な取組を展開することに大学・短期大学・自治体・産業界等が合意をしたことから地域プラットフォーム事業を形成する準備が進められてきた。2018年9月にSDGsを活用した豊かに働き生活できる彦根・長浜地域の創出を実現することを目標とする、彦根・長浜地域の滋賀大学・滋賀県立大学・滋賀文教短期大学・聖泉大学・長浜バイオ大学・滋賀県・彦根市・彦根商工会議所・長浜市・長浜商工会議所の10機関による彦根・長浜地域連携協議会（以下、「協議会」という）が組織された。そして協議会の事業実施に向け、文部科学省2018年度私立大学等改革総合支援事業・タイプ5に申請を行い、2018年度より採択されることとなった。事業のスタートとなる2019年度において、協議会事業として「彦根・長浜地域における学術文化教育基盤形成を目的とした大学・短期大学・地域連携プラットフォーム事業（以下、「プラットフォーム事業」という）」が展開していった。プラットフォーム事業では、大学改革を推進するとともに、地域における知の基盤としての役割を果たし、各連携機関が有する特徴や強みを生かした地域貢献や地域社会で活躍する人材の育成及び豊かな地域社会の構築に産官学が連携して戦略的に取り組むことを柱としている。そのため地域内における高等教育の充実・発展の方向性を包括的に示すための中長期計画を策定している。この中長期計画に基づき多種多様な事業（協議会等を含む）に取り組み、当初の事業計画の想定を超えた具体的な活動を行うことができた。2020年度からは、これまで地域の活性化に資する活動において協力していただいている米原市に本協議会へ加盟いただき、地域のネットワークが強化することができた。これに伴い、協議会名称を「びわ湖東北部地域連携協議会」に改め、2020年度 びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業年間計画（ロードマップ）をもとに、活動指標の見直しを含めた事業計画を定め、中長期計画の実現に向け活動を行った。

20年度から生じた新型コロナウイルス感染症の流行状況下でありながらも、連携機関の創意工夫や対面での活動とIT技術を活用したオンラインでの活動を積極的に組み合わせることで、中長期計画の達成に向け、20年度から22年度において継続的に事業を実施・発展させることで、地域課題の解決に向けた事業に取り組むことができた。2023年度は、中長期計画の最終年度に当たることから、中長期計画の達成を意識するだけでなく、これまでの活動の中長期計画終了後も持続可能な取組として展開できる事を意識した事業計画を作成し地域貢献につながる成果が得られるようにプラットフォーム事業を実行している。

2. びわ湖東北部地域連携協議会 事業概要及び活動指標（2023年度）

（1）2023年度 事業概要

プラットフォーム事業では、びわ湖東北部地域の課題を共有した上で、以下の4つの将来像を中長期計画の根幹に置き、SDGs を活用することで、豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出を目指している。

- 1) 自治体・地域経済界に開かれた高等教育環境のある地域
- 2) 誰もが安心・安全に住み続けることができる地域
- 3) 地域住民・観光客等を引き付ける地域資源のある地域
- 4) 若年層が魅力を感じる豊かな産業基盤のある地域

これらはそれぞれ別個の独立したものでなく、本事業が設定する課題分野の個々の取組が総合的かつ有機的に連携することで実現される将来像と捉えている。

（2）運営体制

プラットフォーム事業を円滑に進めるにあたり、協議会を運営する事務局を置き、中長期計画の根幹に据えている4つの将来像の実現にむけ、以下3つの事業に対応したワーキンググループ（以下「WG」という。）を設置している。

- 1) ワーキンググループA (WG-A) : 産業振興に向けた産官学連携事業
- 2) ワーキンググループB (WG-B) : 地域コミュニティの活性化事業
- 3) ワーキンググループC (WG-C) : 地域を担う次世代人材の育成事業

さらに、以上の3つの事業の進捗状況を管理する事務局を置き、事業活動の情報発信を行うワーキンググループ (WG-D) : 広報・HP 管理を置くことにしている。また、事業を行うにあたり、以下の事業運営の方針を意識した事業計画を立て活動している。

<2023年度 事業運営の方針>

- 1) 事業最終年度（評価年度）となることから継続事業・新規事業ともに KGI の達成に必要な事業を重点的に実施する。
- 2) 数値目標（KPI・KGI）の達成だけに留まらず、びわ湖東北部地域が抱える地域課題の解決に対して、実施する取組がどのように寄与するかを明確にする。
- 3) 2024 年度以降も持続して実施していく必要のある事業の枠組みについて検討を行う。

(3) 2023年度の具体的な目標設定

プラットフォーム事業で行う WG の活動に対して、事業最終年度までに達成を目指す達成目標 (KGI : Key Goal Indicator) 及び KGI の達成するために年度ごと 1 年間の取組成果として目指すべき活動指標 (KPI : Key Performance Indicator) を定め、年度単位で活動の進捗状況の評価している。具体的な達成目標 (KGI) 及び活動指標 (KPI) は以下の通りとなる。

【WG-A : 産業振興に向けた産官学連携事業】

〈 達成目標 (KGI) 〉

- 1) 産官学連携研究をきっかけとした 3 件以上の事業化または商品化を行う。
- 2) 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を2019年度比で10%以上改善する。

〈 活動指標 (KPI) 〉

- 1) 産官学研究について、最終年度までに10件以上を実現する。
- 2) インターンシップ、採用支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を2019年度の参加実績を基準に10%以上の増加を毎年維持する。
- 3) UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所へのプラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間20名以上を実現する。

【WG-B : 地域コミュニティの活性化事業】

〈 達成目標 (KGI) 〉

- 1) 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を2018年度比で40%増加させる。
- 2) 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度65%以上を達成する

〈 活動指標 (KPI) 〉

- 1) 地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。
- 2) 最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを5件以上定着させる。
- 3) 産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年5件以上実施する。
- 4) 地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年2回以上開催し、活動の満足度等を測定する。

【WG-C : 地域を担う次世代人材の育成】

〈 達成目標 (KGI) 〉

- 1) 地域内の複数校が連携した共同教育事業数を2018年度比で20%増加する。
- 2) びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同事業に参加する人数を2019年比で20%以上増加する。

〈 活動指標 (KPI) 〉

- 1) SDGsをテーマにした共通科目を1科目以上開発する。

- 2) 単位互換科目受講生を最終年度までに 2018 年度比で30名以上増加させる。
- 3) 幼小中高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに5件以上行う。
- 4) プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年1回以上開催する。
- 5) 社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに5講座以上実施する。
- 6) 共同 FD・SD 研修を年1回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。

上記の目標を基に2023年度の各ワーキンググループの活動は次ページ以降に詳細を記載している。

3. 2021 年度 びわ湖東北部地域連携協議会 事業活動

(1) 事業概要及び数値目標

A. 産業振興に向けた産官学連携事業

課題	達成目標 (KGI)	取組事業概要	具体的な活動 (取組事業)	活動指標 (KPI)	
びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現	産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワークを整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する	産官学連携事業 ・地域産業界に向けた研究紹介 ・産官学共同事業推進助成	・産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。	
		就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10% 以上改善する	や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在籍学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。	インターンシップ、採用活動支援事業 ・採用活動支援 ・就職活動支援	・インターンシップ、採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
		産官学共同研究の成果や地元産業について、地方雇用創生事業と連携したうえで、プラットフォーム参加校・産業界・自治体の情報網を整備し、自治体が行うUIJ ターン推奨事業の事業活性化を図ることにより滋賀県内企業の就職を支援する。	UIJ ターン推進事業 ・地域の社会課題を解決する起業家創出事業	・UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間20名以上を実現する。	

B. 地域コミュニティの活性化事業

課題	達成目標 (KGI)	取組事業概要	具体的な活動 (取組事業)	活動指標 (KPI)
びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実	地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を2018年比40%増加させる。 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度65%以上を達成する。(2023年度評価)	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。	生涯学習拠点整備事業 ・びわ湖東北部地域生涯学習講座 (教養コース・専門コース)	地域住民向けの公開講座を毎年10講座以上開講する。
		自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。	地域住民に向けた健康増進支援事業 ・人生100年時代健康いきいきプロジェクト	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを5件以上定着させる。
		プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。	まちづくり支援事業 ・災害に強いまちづくりプロジェクト ・びわ湖東北部地域「自然と歴史と暮らしを次代につなぐプロジェクト」 ・びわ湖東北部地域「地域課題解決に取り組む学生プロジェクト」 ・びわ湖東北部地域「まちの魅力発信プロジェクト」	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年5件以上実施する。
		・地域課題に取り組む活動を行う住民・大学生・大学教職員・自治体職員・産業界の人的ネットワークを整備すると共に、各活動団体の定期的な交流会を開くことにより、地域への愛着を持った地域を担う人材を育成する。	ネットワーク推進事業 ・キャンパスSDGsびわ湖大会 ・びわ湖東北部地域「市民活動団体交流プロジェクト」	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年2回以上開催し、活動の満足度等を測定する。

C. 地域を担う次世代人材の育成

課題	達成目標 (KGI)	取組事業概要	具体的な活動 (取組事業)	活動指標 (KPI)
<p>今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保</p> <p>地域課題等をテーマにした共同教育事業の確立</p>	<p>地域内の複数校が連携した共同教育事業数を2018年比で20%増加。(2023年度評価)</p>	<p>・SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施、及びびわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学生向けの教育環境の充実を図る。</p>	<p>SDGs をテーマとした共同講義事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs 単位互換科目 「近江でのSDGsの実践」 ・単位互換事業 <p>単位互換提供科目：「SDGsと滋賀のグローバル・イノベーションー近江のくらしとなりわいー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位互換提供科目：「滋賀論」 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs をテーマにした共通科目を1科目以上開発する。 ・単位互換科目受講生を最終年度までに2018年度比で30名以上増加させる。
	<p>びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を2019年比で20%以上の増加(2023年度評価)</p>	<p>・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供</p> <p>(大学説明会)及び学習支援事業(大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等)を実施する。</p>	<p>幼・小・中・高校生への学習支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・びわ湖東北部地域 文化・芸術推進プロジェクト ・びわ湖東北部地域 不登校児童・生徒プロジェクト ・びわ湖東北部地域 ICT教育推進プロジェクト <p>地域内進学促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・びわ湖東北部地域合同大学説明会 	<p>幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに5件以上行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年1回以上開催する。
		<p>びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアに blanksのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。プラットフォーム参加校によ</p>	<p>地域人材活性化支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs 地域人材養成事業 ・ICT教育推進プロジェクト ・保育・教育者人材養成「小児救 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに5講座以上実施する。

		<p>る社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。</p>	<p>急法」講習</p>	
		<p>びわ湖東北部地域の共同教育事業の確立にあたり、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会（共通 FD・SD）を設ける。</p>	<p>共同 FD・SD 事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を担う次世代人材の育成に向けた共同 IR 事業の開発 ・びわ湖東北部地域 共同FD・SD 研修会 ・高等教育のグラウンドデザインに関する検討会 	<p>共同 FD・SD 研修を年1回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。</p>

WG-A 産業振興に向けた産官学連携事業 2023 年度事業計画

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (産官学連携事業)
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	9
取組事業 No.	A-1-1 地域産業界に向けた研究紹介
事業概要	<p>産学連携による研究や事業を進めるためには、大学がどのような研究をしているのかを産業界に知ってもらうことが第一ステップである。しかし、各大学が研究者紹介などの冊子を作成してはいるものの、その内容は専門的で難解であるとの声が多い。この問題を解決するために 2019 年度から平易な表現を用いて、本プラットフォーム加盟大学共通の研究紹介ハンドブックを作成して地域産業界に配布してきた。</p> <p>今年度も引き続き、産学連携のきっかけをつくるために、「びわ湖東北部地域の産学連携ハンドブック Vol.5」を作成し、連携機関を通じて産業界・地域内に配布する。</p>
事業計画	<p>「びわ湖東北部地域の産官学連携ハンドブック Vol.5」の作成 ハンドブック作成準備のための打合せ (2023 年 7 月) 連携大学へのハンドブックの執筆依頼 (2023 年 8 月) ハンドブックの完成・配布 (2023 年 10 月)</p>

WG-A 産業振興に向けた産官学連携事業 2023 年度事業計画

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (産官学連携事業)
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	9
取組事業 No.	A-1-2 産官学共同事業推進助成
事業概要	<p>WG-A の達成目標である、びわ湖東北部地域での新しい事業化または商品化を達成するためには、産官学共同事業または共同研究の件数を増やすことが必須である。2019 度に、びわ湖東北部地域における産官学共同事業を推進することを目的にプラットフォーム連携事業推進助成を創設した。</p> <p>今年度も引き続き、事業化・商品化を目指す本協議会加盟機関が関わる共同事業・共同研究グループに対して募集と審査を実施し、資金的援助及びプラットフォーム加盟機関による人的・物質的援助を提供する。</p>
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォーム連携機関への募集と選定 (2023 年 7 月末まで) 採択グループへの助成開始 (2023 年 8 月) 助成報告書の作成 (2024 年 3 月)

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-1① インターンシップ促進事業
事業概要	<p>インターンシップに挑む学生の事前準備支援(プレインターンシップ)を行うことで、学生に対して社会人としての基礎スキルの習得および、びわ湖東北部地域内企業の情報収集を支援するとともに、同地域内の受入可能企業とのマッチングおよび受入企業側のインターンシップ受入体制の改善支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> プレインターン受入先(予定:長浜ビジネスサポート協議会)で、教育と企業研究を実施する。(1クール6人ずつ、2クール程度実施) プレインターンの参加者は、年度後半に企業インターンを実施する。年度後半でのプレインターンの参加者は翌年度に企業インターンを実施する予定。
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> 開催予定時期 令和 5 年 5 月～令和 6 年 3 月 参加対象 令和 7 年 3 月卒業予定の学生を主とする若者 開催規模 学生 10～12 人(1クール 5～6 人ずつ、2クール実施) スケジュール(目安) <ul style="list-style-type: none"> 5～6 月 プレインターン参加者募集 10 月 プレインターンの開催 1～2 月 企業インターンの開催

WG-A 産業振興に向けた産官学連携事業 2023 年度事業計画

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-1② 大学と企業のネットワークの強化
事業概要	<p>びわ湖東北部地域内の企業が今後の採用活動の強化を図ることを目的として、大学生の最新の就職活動状況を把握するための情報交換の場を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学就職支援担当者と企業採用担当者の情報交換会を開催する。
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> 開催予定時期 令和 5 年 9 月開催 参加対象 地域内企業 30 社程度 スケジュール (目安) 7 月 びわ湖東北部地域の大学との開催日の調整および企業募集 9 月 開催

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-1③ プラットフォームの構築
事業概要	<p>びわ湖東北部地域内企業の発展と優秀な人材の確保を支援するため、同地域内の企業情報や採用情報等の情報発信を行い、学生や社会人、求職者等人材と企業とのマッチング機会の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生と企業をマッチングするプラットフォームとなるウェブサイトを改良し、びわ湖東北部地域内企業の採用情報およびインターンシップ情報を掲載する。
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> 実施予定時期 令和 5 年 5 月から令和 6 年 3 月 スケジュール (目安) <ul style="list-style-type: none"> 7 月 情報収集、ウェブサイトの改良 8 月～ 企業の採用情報等の掲載を随時実施

WG-A 産業振興に向けた産官学連携事業 2023 年度事業計画

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-1④ 就職フェア支援事業
事業概要	<p>学生がびわ湖東北部地域の企業と接点を持ち、その企業の魅力を知り、就職意欲を高めるとともに、学生の就職と地域内企業の採用充足率向上を目指して、学生と企業とのマッチングをはかる。</p> <p>就職フェア in 湖北【ローカルジョブコレクション】 就職フェア in 彦根【就職フェア in 彦根】</p>
事業計画	<p>実施期間 2024 年 2 月～2024 年 3 月</p> <p>会場：湖北会場（未定）、彦根会場（マリアージュ彦根を予定）</p> <p>対象求職者：2025 年 3 月卒業予定の学生、卒業後 3 年以内の求職者 対象企業：びわ湖東北部地域に就業場所を有する企業</p> <p>11 月 参加企業募集 1 月 参加学生募集 2～3 月 イベントの開催</p>

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-2① 留学生・キャリアガイダンス
事業概要	<p>びわ湖東北部地域連携協議会参加大学に在籍している、日本企業への就職を目指す留学生等を対象とした就職ガイダンスを実施する。ガイダンスは下記のとおり予定している。(対面とオンライン併用での開催を予定)</p> <p>① 学部 1 年生の留学生対象ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本で働くための就職活動について 就活と在留手続きに関する書類作成の方法について 留学生及び卒業生によるインターンシップ、就職活動体験談について 企業採用担当者から外国人に求める職種・採用ポイントについて 留学生、卒業生へのインタビュー <p>② びわ湖東北部地域連携協議会参加大学に在籍の留学生対象ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本で働くための就職活動について 就活と在留手続きに関する書類作成の方法について 留学生及び卒業生によるインターンシップ、就職活動体験談について 企業採用担当者から外国人に求める職種・採用ポイントについて 留学生、卒業生へのインタビュー
事業計画	<p>① 5 月 準備のための打ち合わせ開始</p> <p>6 月 講師依頼、協力企業等依頼</p> <p>7 月 ガイダンス実施</p> <p>② 10 月 準備のための打ち合わせ開始</p> <p>11 月 講師依頼、協力企業等依頼</p> <p>12 月 ガイダンス実施</p>

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-2② 就職活動支援【パネルディスカッション+合同企業説明会】
事業概要	<p>第 1 部・パネルディスカッション+第 2 部・合同企業説明会 目的：コロナ禍を経て「働き方」が多様化した中、就職活動に取り組む学生が、地元のいろいろな業種の企業を知ることによって視野を広げ将来の可能性を探る機会を設ける。</p> <p>◆第 1 部・パネルディスカッション 午前</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマ：地元「滋賀」で働くということ ～その可能性と魅力～ (仮) 内容：地元で働くことの意義についてメリット・デメリットを踏まえて検証する機会とする。 <ul style="list-style-type: none"> ▶地元の企業を知る ー特徴を知るー ▶地元へ貢献する働き方とは ▶地元だからこそ実現できるキャリアとは ▶ワークライフバランスを考える パネリスト (予定)：企業・商工会議所・自治体・大学関係者・県内出身者で地元企業に就職した OB・OG コーディネーター <p>◆第 2 部・企業合同説明会 午後</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施方法：オンラインで実施、チャット機能でアイスブレイクを行う 企業数：10 社程度 (彦根・米原・長浜の地元企業に依頼)
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> 日時：2024 年 1 月中旬～2 月中旬 対象学生：びわ湖東北部地域連携協議会加盟大学・短期大学、その他滋賀県内 10 大学・短期大学、京都府の私立大学・短期大学の学生 運営者：株式会社いろあわせ 計画：2023 年 6 月 事業計画確認 2023 年 10 月 打ち合わせ 2023 年 11 月 チラシ作成・校正 2024 年 12 月 広報

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (UIJ ターン推進事業)
取組事業概要	産官学共同研究の成果や地元産業について、地方雇用創生事業と連携したうえで、プラットフォーム参加校・産業界・自治体の情報網を整備し、自治体が行う UIJ ターン推奨事業の事業活性化をはかることにより滋賀県内企業への就職を支援する。
活動指標	UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-3-1 地域の社会課題を解決する起業家創出支援事業
事業概要	<p>地域が抱える社会課題の解決を目指す、起業家の育成支援事業として前年度はアントレプレナーシップ教育に注力したが、今年度はリアルな起業家の創出を目指す。</p> <p>そのため、先端的分野の学びの場やフィールドワークを発展継承したワークショップ、専門家による相談支援を実施する。また、起業準備のために、米原 SOHO を有効活用する。</p> <p>(目標：新規起業家数 2 者)</p> <p>【事業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 新事業への展開に役立つ、時流に即した先端的分野の学習セミナー ② 地域の課題解決を目指した、事業プラン作成のためのワークショップ ③ リアル起業家創出に向けた、専門家による個別面談、相談支援
事業計画	<p>5 月 事業全体の実施計画・打ち合わせ セミナー・ワークショップのプログラム検討</p> <p>6 月 各大学・市町などを通じて受講者募集</p> <p>7 月～ セミナー開講</p> <p>8 月～ ワorkshop実施・ビジネスモデル作成支援 専門家相談 (資金・知財・宣伝・雇用など) 米原 SOHO の活用</p> <p>2 月 成果発表</p>

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・ 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (生涯学習拠点整備事業)
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	B-1-① びわ湖東北部地域生涯学習講座 市民教養講座
事業概要	<p>地域住民向けの公開講座を継続して開催する。5 大学・短期大学の知的資源を活用し、多様なテーマを開催することで、地域住民の学びのきっかけづくりや知的好奇心を満たすことを目指している。</p> <p>今年度も会場型（対面）を原則とし、後日視聴に対応するため同時収録を行い、動画（オンデマンド）配信を併せて行う。各大学 2 名の教員が講師となり合計 10 講座を開講する。</p>
事業計画	<p>[講座] 質疑対応を含め 90 分程度</p> <p>[時期] 7 月下旬からから 10 月上旬までの間</p> <p>[講師] 長浜バイオ大学 2 名、滋賀文教短期大学 2 名、滋賀大学 2 名、滋賀県立大学 2 名、聖泉大学 2 名</p> <p>[会場] 協議会参画の県または市の施設</p> <p>[予約] 会場型、オンデマンド視聴ともに事前申込制とし属性の登録を求める。</p> <p>[その他] 講座会場および日程については、提供大学の都合（希望）により決定することを原則とするが、調整を行う場合がある。</p>

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (生涯学習拠点整備事業)
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。
対応 SDGs 番号	3・4
取組事業 No.	B-1-② びわ湖東北部地域生涯学習講座 子育て支援講座
事業概要	<p>過去 3 年間、コロナ禍で仲間づくりの目的も兼ねた母親教室や両親学級の集団指導が中止され、また妊婦健康診査時や出産の夫立ち合いも中止され、さらには家族の面会制限などの措置が行われてきた。その結果、妊婦にとって不安が増大し、社会的孤立によって母子やその家族の健康が損なわれてきた可能性もある。また、子育てに関連する相談先やイベントの縮小、制限により、地域の子育て支援が困難な状況が続いてきた経緯もある。今年度はコロナ後の社会生活の拡大に伴い、より多くの住民に母子を取り巻く現状を知ってもらい、妊婦や育児期の母子の孤立を防止し、家族のサポート体制を強化するための 5 講座を対面にて実施する。</p> <p>[事業内容]</p> <p>1. オレンジリボン運動 (別科助産・助産学生担当)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多賀大社 (多賀町) の腹帯祈願の日 (5 月 28 日 (日) 戌の日) とコラボし、児童虐待防止を呼びかける企画を展開する ・参加者 (腹帯の安産祈願に来場した妊婦およびその家族) <p>2. 子育て応援講座</p> <p>①妊婦のためのマインドフルネス体験会・交流会 (母性看護学領域担当) (6 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期の過ごし方、出産の流れや呼吸法など ・マインドフルネス体験会 ・赤ちゃんへの贈り物、夫婦の絆を深める作成など <p>②助産師学生によるパパママクラス (別科助産・助産学生担当) (8 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期の過ごし方、出産の流れや呼吸法、沐浴や抱っこの仕方など ・参加者については定員 (10 組) を設け予約制で実施する。

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

	<p>③パパママクラス・交流会（母性看護学領域担当）（10月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期の過ごし方、出産の流れや呼吸法など ・マインドフルネス体験会 ・赤ちゃんへの贈り物、夫婦の絆を深める作成など <p>④グランママリフレッシュ教室（別科助産担当）（3月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てを支援する祖母世代を対象に更年期・老年期を健やかに過ごすための交流会・ヨガ教室 ・参加者は定員（10名）を設け予約制で実施する。 <p>[参加者のリクルート方法]</p> <p>近隣産科施設、子育て支援拠点、市町保健センターにチラシの配布を依頼、地域広報誌などへの掲載も依頼する</p>
事業計画	<p>《別科助産・助産師学生担当事業》</p> <p>4月 1. オレンジリボン運動 講座企画・媒体作成。広報活動実施</p> <p>5月 1. オレンジリボン運動実施（5月21日、多賀大社）アンケート実施 2-③パパママ講座 講座企画・広報活動（チラシ作成・配布）</p> <p>6月 2-③パパママ教室 講座企画、動画作成・広報活動（チラシ作成・配布）</p> <p>7月 2-③パパママ教室 広報活動、講座企画・広報活動（チラシ作成・配布）</p> <p>8月 2-③パパママ講座開催、アンケート実施</p> <p>9月 まとめ（前半）</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. オレンジリボン学生の学びまとめ、評価 2-③パパママ講座アンケートまとめ、評価 <p>2月 2-⑤グランママヨガ教室 講座企画・広報活動</p> <p>3月 2-⑤グランママヨガ教室開 アンケート実施 2-⑤グランママヨガ教室アンケートまとめ、評価</p> <p>3月 まとめ（全体）</p> <p>《母性看護学領域担当事業》</p> <p>5月 イベント詳細決定（日時・内容等） 参加学生募集、チラシ作成・広報活動</p> <p>6月 2-①マインドフルネス体験会開催 アンケート実施</p> <p>10月 2-①マインドフルネス体験会開催 アンケート実施 2-④パパママクラス開催 アンケート実施</p> <p>12月 2-④パパママクラス開催 アンケート実施</p> <p>3月 まとめ</p>

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

	次年度以降も継続的に実施する。
--	-----------------

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (生涯学習拠点整備事業)
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	B-1-③ びわ湖東北部地域生涯学習講座 リフレッシュ講座
事業概要	幅広い層に関心をもってもらえるような講座を開催する。本学の資源を生かし、滋賀に関わるの文学を愉しむ視点を軸とした講座も開講する。家庭・地域全体での生涯学習活動の推進を目的とする。
事業計画	<p>1) 滋賀ゆかりの文学を愉しむ 1 (仮)</p> <p>「今村翔吾作『塞王の盾』をめぐって一穴太積み石垣 vs 国友鉄砲一」作家と研究者の対談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催時期：9 月～12 月ごろを予定 ※8 月中旬～ 報道発表、ポスター・チラシ配布(図書館、博物館、ホール、公民館、市役所等)、参加申込み受付 <p>2) 滋賀ゆかりの文学を愉しむ 2 (仮)</p> <p>「近江の伝説考」東近江在住研究者の講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催時期：9 月～12 月ごろを予定 ※8 月中旬～ 報道発表、ポスター・チラシ配布(図書館、博物館、ホール、公民館、市役所等)、参加申込み受付 <p>3) 滋賀ゆかりの文学を愉しむ 3 (仮)</p> <p>「詩人、自作詩を語る—小学校国語教科書掲載詩から—」滋賀文化賞受賞の滋賀県在住詩人の講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催時期：9 月～12 月ごろを予定 ※8 月中旬～ 報道発表、ポスター・チラシ配布(図書館、博物館、ホール、公民館、市役所等)、参加申込み受付

	<p>4) 滋賀ゆかりの文学を愉しむ4 (仮) 「長浜吟遊公開句会」俳人による公開句会 ・開催時期：9月～12月ごろを予定 ※8月中旬～ 報道発表、ポスター・チラシ配布(図書館、博物館、ホール、公民館、市役所等)、参加申込み受付</p> <p>5) 滋賀ゆかりの文学を愉しむ5 (仮) 「源氏物語を愉しむ」本学教員による講演 ・開催時期：9月～12月ごろを予定 ※8月中旬～ 報道発表、ポスター・チラシ配布(図書館、博物館、ホール、公民館、市役所等)、参加申込み受付 ※併せて関連展示も行う。</p> <p>6) 絵本を楽しむ講座 (仮) 開催時期：2023年10月～11月ごろの休日に開催予定 会場：滋賀文教短期大学松翠館 大講義室 (予定) 募集定員：20名～50名 (予定) [講師：絵本作家 近藤 薫美子 氏]</p> <p>7) 世界のおもちゃで遊ぼう 2023 (仮) 日時：2023年11月21日 (火) 午後 (予定) 会場：滋賀文教短期大学翠湖館 あすなろホール (予定) 募集定員：20名～30名 (予定) [講師：有限会社 キッズいわき 代表取締役社長 岩城敏行 氏]</p>
--	---

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (生涯学習拠点整備事業)
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	B-1-④ びわ湖東北部地域生涯学習講座 次世代へ伝える地元先生育成プロジェクト
事業概要	<p>社会人を対象とし、大学等の高等教育機関や市町の社会教育団体等における専門的な学習機会の提供により、次世代の地域人材に学んだ知識を伝えられる人材育成を目的とした事業。</p> <p>このプロジェクト目標は、大学等の高度な知識をはじめ、地域資源、地域課題についての知識を習得し、それを基礎としながら、地域交流活動などを通じて、積極的に次世代へ学んだ知識を伝える事で、地域のつながりを強め、総合的な地域人材の育成を図る。</p> <p>主に長浜市・米原市・彦根市にて周知を行う他、ICT を活用し広域的に参加者を募集する。</p>
事業計画	<p>2023 年 5 月 地元先生育成プロジェクト実行委員会を開催</p> <p>プロジェクト実施に向けた企画・運営を行う。</p> <p>2023 年 7 月～2024 年 2 月 講座期間</p> <p>講座内容 10 講座程度を予定</p>

	<p>高等教育機関や市内高等学校、地域で活躍する社会教育団体等と連携し、特色ある学びの提供と、学びを活かした活躍の場を広げられる講座を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">・開町 450 年に合わせ、地域の歴史を地域資源と捉え、次世代の地域人材育成につなげる。・ICT を活用し、デジタル空間での学びの提供を図る。・学びを通して知識を広げ、活躍できる場の提供を行う。
--	--

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (地域住民に向けた健康増進支援)
取組事業概要	地域住民の健康増進のために、自治体と連携し、健康への意識向上、取組継続、将来的には地域の担い手育成を目指す。
活動指標	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
対応 SDGs 番号	3、15
取組事業 No.	B-2-① 人生 100 年時代健康いきいきプロジェクト 中高年の健康増進分野
事業概要	<p>健康的な生活を送るには、食事・運動・睡眠などの生活習慣が重要なことはよく知られているが、社会交流によって、好奇心を持つ、学ぶ、探求する等「生活を楽しむ」ことも重要な要素である。このプロジェクトでは、ウォーキングによる健康増進、地元を歩くことによる魅力再発見、地域住民との交流等、日常生活に刺激を与えるイベントとして『ぶらり地元ウォーキング』を実施する。いずれもビワテクのコースとして登録し、継続的な健康増進活動を支援する。また、感染症拡大防止措置として規制されてきた地域住民の構内立ち入りが徐々に緩和されてきたため、今年度から大学探検コースを増設し講義・学食・施設見学等を実施する。</p> <p>『ぶらり地元ウォーキング 3.0』</p> <p>3) 地域の魅力を再発見！(地場産業・観光)</p> <p>①長浜コース ②米原コース ③彦根コース</p> <p>2) 大学ツアー！</p> <p>④聖泉大学(彦根市肥田町)</p> <p>健康講座、施設見学、大学周辺散策、学食体験</p> <p>3) ロコモチェック！健康体操講座</p> <p>健康診断、ロコモ診断、健康体操講座</p>

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

事業計画	6月 日程・コース・見学先・内容・ガイド等の決定 学生企画案・キーワードの検討 7月 準備開始 8月 募集開始 広報誌掲載・チラシ配布 10月～11月 イベント開催 12月 アンケート集計 1月～ 次年度の検討
------	---

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (地域住民に向けた健康増進支援)
取組事業概要	地域住民の健康増進のために、自治体と連携し、健康への意識向上、取組継続、将来的には地域の担い手育成を目指す。
活動指標	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
対応 SDGs 番号	3・4
取組事業 No.	B-2-② 人生 100 年時代健康いきいきプロジェクト 光と色でつながるびわ湖東北部地域の健康づくり
事業概要	<p>【目的】 学生を含む地域住民に対して、健康を脅かす生活習慣病やがん、認知症に対する関心をもち、世界各地で取り組まれている健康づくり活動への一歩を踏み出す支援を行うために 3 つのプロジェクトを継続的に実施する。</p> <p>【プロジェクトの主な内容】 各プロジェクトの内容は、対象者への①情報提供 (教育)、②情報ツール (ラジオ、ホームページや Facebook) または、展示を用いた啓発活動、③聖泉大学体育館壁面へのライトアップによる情報発信である。</p> <p>【プロジェクト 1】 認知症高齢者とともに「オレンジリング」 目的：認知症高齢者への対応について考える ①彦根市認知症キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座の実施 ②情報ツールによる発信：誰でもできる認知症の人への対応について ③オレンジライトアップ</p> <p>【プロジェクト 2】 乳がん患者とともに「ピンクリボン」 目的：乳がん患者への支援について考える ①がん検診推進グッズの展示やがん患者への支援 (タオル帽子作成ワークショップ) ②情報ツールによる発信：がん患者やその家族への思いと支援 ③ピンクライトアップ</p>

	<p>【プロジェクト3】糖尿病を予防する「ブルーサークル」 目的：糖尿病予防を毎日の生活改善から考える ①糖尿病予防に関する啓発物の展示 ②情報ツールによる発信：気軽に取り組める糖尿病予防の食生活 ③ブルーサークルライトアップ</p> <p>①は連携先を中心にした学生および地域住民に対する情報提供（健康教育） ②は学生と連携先のコラボによる啓発活動 ③は①と同時開催による彦根市，滋賀県，地域を超えた情報発信である。</p>
<p>事業計画</p>	<p>【1】 連携先：彦根市福祉保健部高齢福祉推進課 【2】 連携先：ピンクリボンひこね 【3】 連携先：現在調整中 【1・2・3】：株式会社 工房 jinta</p> <p>会場：①②③聖泉大学内</p> <p>6月 連携先との日程等（①②③）詳細の決定後，活動する学生募集 ライトアップに関する周辺自治区への依頼と周知</p> <p>7月 【1・2・3】 詳細なスケジュールを決定する（日時，関係者役割，広報， 予算）</p> <p>8月 【1】 開催について配信（チラシ・HP）関係者と事前打ち合わせ 【2】 詳細なスケジュールを決定する</p> <p>9月 【1】 ①②③9/30（実施時期は連携先と要調整） 【2】 開催について配信（チラシ・HP）関係者と事前打ち合わせ 【3】 詳細なスケジュールを決定する</p> <p>10月 【2】 ①②③10/9（実施時期は連携先と要調整） 【3】 開催について配信（チラシ・HP）関係者と事前打ち合わせ</p> <p>11月 【3】 ①②③11/23（実施時期は連携先と要調整）</p> <p>まとめ</p>

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進するために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	4、11、13
取組事業 No.	B-3-1 災害に強いまちづくりプロジェクト 防災士養成講座&防災研修会
事業概要	近年、地球温暖化の影響もあり、各地で大規模災害が毎年起こるようになった。昨年度から開催している防災士養成講座を継続するとともに、実際の災害時にも対応できるよう、産官学が連携し防災研修会および防災イベントを開催する。
事業計画	<p>① 防災士養成講座 (通信レポート+2 日間講義+防災士試験)</p> <p>[講師] 滋賀大学・滋賀県立大学・立命館大学・京都橘大学・彦根地方気象台、NPO 政策研究所・日本防災士会滋賀県支部の講師</p> <p>[会場] 聖泉大学 (2 日間)</p> <p>[定員] 95 名程度</p> <p>[募集] 各連携機関に PF 推薦枠を設け募集するとともに一般募集も行う。</p> <p>② びわ湖の大学生がつなげる防災活動</p> <p>[概要] びわ湖東北部地域 5 大学の防災士有資格学生が主体となり、小学生向け防災キャンプ (宿泊なし) を開催する。防災キャンプでは、かまどベンチ炊き出し体験や避難所生活に必要な物品の準備など、避難所生活を忠実に再現し災害に対する準備意識、防災意識の向上を目指す。</p> <p>[会場] 聖泉大学</p> <p>[定員] 20 名程度</p> <p>[予定] 5~6 月 学生・地域防災士募集開始 7 月 内容決定</p>

	<p>8月 事前学習会開催 9月 参加者募集開始 10月 イベント開催 10月 アンケート回収・反省会 12月 次年度検討</p> <p>③ 防災研修会</p> <p>i) 一般市民向け 防災に興味のある市民、防災士資格取得を目指す市民向けに防災研修会を開催する。会場は3市を予定し、9月頃開催する。</p> <p>ii) 防災士有資格者向け PF 推薦にて防災士資格を取得した方を対象に防災リカレント研修会を開催する。防災士間のつながりづくりを目的とし、びわ湖東北部地域の防災力向上を図る。2日間の開催を予定し、1月頃開催する。</p> <p>[内容] ①滋賀県危機管理センター見学+防災ワークショップ ②応急救護講習+HUG 演習</p>
--	---

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・ 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (地域住民に向けた健康増進支援)
取組事業概要	地域住民の健康増進のために、自治体と連携し、健康への意識向上、取組継続、将来的には地域の担い手育成を目指す。
活動指標	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
対応 SDGs 番号	3, 15
取組事業 No.	B-3-2-①びわ湖東北部地域「自然と歴史と暮らしを次代につなぐプロジェクト」土倉の森の伝承～散策と観察～
事業概要	健康的な生活を送るには、食事や運動、睡眠などの生活習慣が重要である。それに加え、社会交流によって、好奇心を持って学び探求し、創作することも重要な要素である。そこで本事業では、これまで行ってきた土倉の森ウォーキングをさらに充実させ、新たな魅力発見に繋げる。さらに、本学の実験機器である電子顕微鏡を公開し、ウォーキングで得られたサンプルを解析することで、土倉の森への知的探究心を養う。電子顕微鏡で観察した花粉等を、3D プリンタで再現し、得られた立体物を絵の具で着色し創作活動をすることで、新しい繋がり「ウォーキング x 電顕 x アート」を実現する。これら本事業の成果を公表・発信し、関心を持ってもらうことで、次世代の担い手育成に繋げる。
事業計画	<p>6 月 日程やコースの見学, 内容等の選定</p> <p>7 月 募集準備, 募集開始, 広報へ掲載</p> <p>8 月 土倉の森ウォーキング(1)と鉱物探索, 電子顕微鏡を用いた鉱物解析(後日本学で開催)</p> <p>10 月 土倉の森ウォーキング展の開催(これまでの事業の総まとめ)</p> <p>11 月 土倉の森ウォーキング(2), 電子顕微鏡を用いた花粉観察と 3D アート作成(後日本学で開催)</p> <p>以上の計画から, 土倉の森の発展に寄与する。</p>

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・ 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進する活動を毎年 5 件以上実施するために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	11, 13, 14, 15
取組事業 No.	B-3-2-②びわ湖東北部地域「自然と歴史と暮らしを次代につなぐプロジェクト」 地域資源の魅力を発信するイラスト冊子の作成
事業概要	<p>びわ湖東北部地域が有する豊かな自然資源は、様々な課題に対して有効な解決策となり得る潜在的な可能性を秘めている。そのため、この貴重な自然資源を持続可能に有効活用していくとは、重要な地域課題といえる。</p> <p>持続可能な有効活用においては、行政や住民による維持整備と、それを行うための財源確保が不可欠であり、当地域が積極的に活用され、安定的に収益が得られるようになることは大変重要である。</p> <p>この課題に対し、当地域の豊かさを地域内外に発信することに取り組む。学生に調査させることで、学習成果の獲得と、学生の当地域への愛着度の向上も目指す。</p> <p>これまでの冊子と差別化を図るため、あえてイラストを多く用いた冊子とする。</p>
事業計画	<p>当地域の野外フィールドや伝統を、学生が調査し、冊子にまとめていく。冊子の監修及びイラスト制作を外部に委託する。</p> <p>作成した冊子は、観光協会や行政と連携し、各所に設置または PDF 化して HP 等に掲載していただけるように調整していく。</p>

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進するために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	3
取組事業 No.	B-3-2-③びわ湖東北部地域「自然と歴史と暮らしを次代につなぐプロジェクト」郷土食を見直す
事業概要	ユネスコにより、「和食」が食の無形文化遺産と認められ、また、「近江のなれずし製造技術」が国の登録無形民俗文化財に登録されるなど、日本の各地域で育まれてきた食の文化の価値が見直されています。滋賀県東北部地域においても、郷土食として伝わってきた独自の食文化を持っています。この食文化を、現代に生きる私たちがしっかりと受け継ぎ、未来に伝えるべく、座学で学ぶとともに、市の健康推進員の協力も仰ぎ、現代の食生活に活かすべく調理実習と試食(予定)を行います。
事業計画	<p>以下の日程で計画を進める予定。</p> <p>9 月中旬～ 報道発表、ポスター・チラシ配布(図書館、博物館、ホール、公民館、市役所等)、参加申込み受付</p> <p>10 月～11 月 講座を実施</p>

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進するために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	11
取組事業 No.	B-3-3-① びわ湖東北部地域「地域課題解決に取り組む学生プロジェクト」SDGs でつながる学生の地域連携プロジェクト
事業概要	<p>「SDGs でつなぐ学生の地域連携プロジェクト」として、PF 連携大学(学生・教員)と PF 連携機関・びわ湖東北部地域にある各種団体が連携し、地域活性化や地域課題解決に向けた取組を行う事業。連携大学から事業計画を募集し、活動を認められたプロジェクトには、活動費(最大 10 万円)の範囲内で提案に沿った取組を行う。なお、会計については、プロジェクト提案大学で行い、PF 事務局へ請求する。</p> <p>活動の中間報告として、「キャンパス SDGs びわ湖大会」を活用する。</p> <p>各大学での募集は 8 月末まで実施可能とする。</p> <p>※1 大学 3 プロジェクトまで</p> <p>プロジェクト実施学生には、地域への愛着度調査を実施する。</p>
事業計画	<p>6 月 プロジェクト募集要項・申請書作成、募集開始</p> <p>6 月下旬 プロジェクト決定</p> <p>～8 月末 プロジェクト応募締切</p> <p>6 月～2 月 プロジェクト開始</p> <p>各大学のスケジュール・課外活動規程に従って実行</p> <p>11 月 キャンパス SDGs びわ湖大会にて中間報告発表、パネル展に出展</p> <p>1 月 学生アンケートの実施(愛着度調査)</p> <p>2 月下旬 プロジェクト実績報告・会計報告</p>

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	<p>安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進す 動を毎年 5 件以上実施する。</p> <p>るために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。</p>
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	11
取組事業 No.	B-3-3-②びわ湖東北部地域「地域課題解決に取り組む学生プロジェクト」デジタルコミュニティ通貨を通じた地域づくり実験事業
事業概要	<p>滋賀県が行う「デジタルコミュニティ通貨」実証実験とコラボした大学の授業プログラムとして実践する。</p> <p>持続可能な社会づくりとして、地域の社会資本に着目した地域活性化の仕組みとして「デジタルコミュニティ通貨」の考え方を学び、実際に滋賀県で行う実証実験「ビワコ」に参画し、コミュニティ通貨を使ったり、通貨のユーザーの獲得や使用できるスポットの開拓などの活動を行うもの。</p> <p>地域での学びと実践を通じて、ヒト・モノ・カネ（価値）がどう循環し、活性化につながるかを学び、考える機会とする。</p>
事業計画	<p>滋賀大学の授業として、4月から7月末の授業枠で実施する。</p> <p>大枠としては次の予定です。</p> <p><4月> デジタル地域通貨の考え方、地域イベントでの通貨の活用を考え、実践する。</p> <p><5月、6月> 滋賀県の「ビワコ」戦略を学ぶ 「ビワコ」の活用事例から、活用と価値の循環が生み出すものを学ぶ</p> <p><7月></p>

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

	<p>実際に「ビワコ」の実証実験として体験を作ったり、利用することで、価値循環や繋がりが見える化を検証する。</p> <p>近隣市町での取り組み事例の視察も予定する。</p>
--	---

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・ 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	<p>安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進する活動を毎年 5 件以上実施する。</p> <p>るために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。</p>
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	3, 8, 10, 11
取組事業 No.	B-3-3-③「びわ湖東北部地域「地域課題解決に取り組む学生プロジェクト」福祉と“まちづくり”を考える事業
事業概要	<p>学生が、福祉と“まちづくり”を学び、考え、実践するために以下の 4 プロジェクトを柱として実施する。</p> <p>1)「福祉教育を考える」プロジェクト 「福祉教育」は福祉を伝えることの一つとして、学校への出前講座などとして、実践されてきた。しかし、ここで一旦立ち止まり、「そもそも」を考えてみたい。福祉教育として福祉を伝えることは、実際に誰に何を伝えるのか。福祉って何なのか。「福祉を伝える」という言葉だけでも、たくさんの問いが生まれる。この事業では、湖東・湖北地域の社会福祉協議会さんや福祉団体と連携し、大学生が福祉を考え、子どもたちに福祉を伝えていくことを実践したい。今の時代の福祉教育の在り方や可能性を探究することを目指す。</p> <p>2)「障害者アート展」プロジェクト 地域の障害者アート実行委員会との共催で、滋賀大学内でのサステナウィーク(持続可能な社会づくりを考える週間)に合わせてアート展を計画する。この事業に合わせて、近隣の障害者支援施設での取り組みを見学予定。</p>

	<p>3) 「ウォーカブルなまちなかの可能性を考える」プロジェクト まちなかで人々が集まり、憩い、多様な活動を繰り広げる場を実現するための背景にあるウォーカブルなまちづくりの考え方を理解した上で、キッチンカーや屋台といった小さな経済活動の実践例と、これらの場や活動を支えるエリアプラットフォームのあり方について現地調査をふまえて、彦根での実現可能性について考える。(「ひこね共創ビジョン」(彦根市都市計画課)と連携)</p> <p>4) 「福祉から “まちづくり” を考える」プロジェクト 福祉の思想を前提とした共生社会の実現にとりくむ福祉の現場の実践者や経営者から学び、まちづくりにおけるダイバーシティとインクルージョンを考える。そこで、滋賀県での実践を通じて、障害福祉の父と呼ばれた糸賀一雄の思想について取り上げる。さらに、この理念を受け継ぎ、滋賀県だけでなく、全国各地で実践に取り組む人々から話を聞く。福祉の理念をふまえて、実践者による語りのワークショップに参加を通じ、まちづくりのあり方を考える。(滋賀県障害福祉課、糸賀財団、全国地域生活支援ネットワークと連携)</p>
<p>事業計画</p>	<p>1) 2) 「福祉教育を考える」プロジェクト、「障害者アート展」プロジェクト</p> <p>滋賀大学の集中講義やサステナウィークと連動した取り組みとして実施予定</p> <p>【8月下旬～9月上旬】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滋賀大学彦根キャンパスにて、連続開催のワークショップとして実施。授業履修生だけでなく、滋賀大学全学部、びわ湖東北部連携事業の大学生にも参加を呼びかける。 <p>【11月中下旬】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滋賀大学のサステナウィークと連動して、障害者アート展示会と施設見学を実施予定。 <p>3) 「ウォーカブルなまちなかの可能性を考える」プロジェクト</p> <p>滋賀大学の秋学期科目と連動した取り組みとして実施</p> <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーカブルなまちづくり、実践例、エリアプラットフォームのあり方について学ぶ ・現地調査の事例検討・中間報告会 <p>【11月】</p>

	<ul style="list-style-type: none">・キッチンカーおよび屋台の実践者に対するヒアリング、エリアプラットフォームへの現地調査 <p>【12 月】</p> <ul style="list-style-type: none">・成果の取りまとめ <p>【1 月】</p> <ul style="list-style-type: none">・成果報告会の実施 <p>4) 「福祉から “まちづくり” を考える」プロジェクト 滋賀大学の秋学期開講科目と連動して実施</p> <p>【10 月】 福祉の思想および糸賀一雄について学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none">・糸賀一雄の実践だけでなく、「この子らを世の光に」という理念を学ぶだけでなく、共有するうえで言葉の重要性を理解する。 <p>【11 月・12 月】 当事者・実践者から学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none">・県内外の実践者や経営者から、実践だけでなく、まちづくりに対する認識の違いについて学ぶ。なお、ゲスト講師については公開講義として実施する。 <p>【1 月】 語りの実践を通じて学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none">・福祉関係者による共生社会の実現にむけて、福祉の理念を確認するためのワークショップに参加し、語りの実践方法について学ぶ。
--	---

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・ 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進する活動を毎年 5 件以上実施するために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	4, 11
取組事業 No.	B-3-4-① びわ湖東北部地域「まちの魅力発信プロジェクト」 Feel°CWalk で地域の魅力を再発見し、リーフレットを作成しよう
事業概要	<p>Feel°CWalk で、あてもなく地域を歩き、発見したことを「知図」として描く。</p> <p>発見、共有したことをリーフレットにし、市役所や図書館、大学等に展示する。リーフレット作りは個人またはグループで行い、グループは、大学生と小学生、家族など、異年齢が混ざる形で設定する。リーフレット作りの活動では、作家の方や、製本業者、出版社等の方との連携も視野に入れる。地域のことを伝えるポスター作製のような形も考えられる。自由な発想でアイデア出しする形も考えられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Feel°CWalk と「知図」づくり 2 地図をもとにしたリーフレット作り 3 作品の共有・発表 <p>参考：Feel°CWalk https://tqwalk.mystrikingly.com/</p>

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none">• 8 月中 Feel°CWalk と「知図」作り• 9 月～10 月(2 回程度) アイデアだし、リーフレット作り• 11 月～12 月 成果発表／共有
------	---

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	<p>安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進す 動を毎年 5 件以上実施する。</p> <p>るために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。</p>
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	11
取組事業 No.	B-3-4-② びわ湖東北部地域「まちの魅力発信プロジェクト」 音楽を通じた多文化共生のまちづくり演奏会
事業概要	<p>まちなかコンサートの開催</p> <p>地域における芸術文化の振興を図ること、音楽を通じた国際交流活動を推進することを目的として、国際親善交流音楽会を実施する。</p> <p>コンサートホールに出かけてのコンサート鑑賞は敷居が高いと躊躇している方々に向け、観客が数十人規模、一時間程度のプログラムで市民に気軽に音楽を楽しんでもらう、まちなかコンサートを開催する。</p> <p>特に演奏会場については出来る限り通常のホール等ではなく、地域の古民家等、演奏可能な場所を選定することとし、古民家活用やまちづくりの在り方の一つの方法として実験的な側面も含め実施する。(調整が難しいようであればホールも検討)</p> <p>また、国際交流の側面を持たせる事により、海外の人にも日本の地方の魅力を伝えることへの一助とする。</p> <p>【参加候補団体リスト】</p> <p>「クラシック室内楽」京都市交響楽団メンバー等</p> <p>「声楽」びわ湖ホール声楽アンサンブルメンバー</p>

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

	<p>「邦楽」滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」メンバー 「ラテンミュージック」ブラジル音楽 「ホスピタルコンサート」(予定) 滋賀県東北地域にある病院でのプロミュージシャンによるコンサート</p> <p>【任意参加者】 びわ湖東北部地域連携協議会参画機関より選定</p>
<p>事業計画</p>	<p>以下の日程で計画を進める予定です。</p> <p>6月上旬～ 実施場所の検討・調整（びわ湖東北部地域の参加候補団体との参加者調整 連携機関より参加者調整</p> <p>8月中旬～ 報道発表、ポスター、チラシ配布（図書館、博物館、ホール、公民館、市役所等）、参加申込み受付</p> <p>10月～12月 コンサートを実施（当短大を会場としたものは4～5回実施）</p>

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・ 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進するために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	3、11
取組事業 No.	B-3-4-③ びわ湖東北部地域「まちの魅力発信プロジェクト」 ユニバーサルスポーツを通じた地域交流および多様性理解の推進とプロモーション動画の制作
事業概要	<p>1. 趣旨</p> <p>「モルック」はチームや個人で木の棒を的に投げるユニバーサルスポーツであり、子どもから高齢者、障害を持つ人な“誰でも”楽しむことができる。最近ではメディアにも取り上げられ、昨年開催された全国大会では 1,000 人以上が集まるなど、わが国でも大きく注目を集めている。障害を持つ子どもや大人、高齢者などはスポーツなどで身体を動かす機会も交流の機会もが少なく不活動による心身の健康問題が懸念されてユニバーサルスポーツはその解決策になるだろう。それだけでなく、ユニバーサルスポーツは多様な人々の交流のためのツールともなり得る。コロナ禍でスポーツや交流の機会はより減っていることから、新たなそしてユニバーサルなスポーツを用いた交流の機会のローカルなレベルでの創出が必要である。</p> <p>そこで、本事業は、①モルックを中心としたユニバーサルスポーツをびわ湖東北部地域の障害者施設や放課後等デイサービスなどに対して普及啓発する活動(出張モルック体験)、②びわ湖東北部におけるユニバーサルスポーツ体験会・大会の開催、③それらの活動を撮影した映像を用いて多様性理解とびわ湖東北部の地域活性を推進するプロモーション動画の制作を実施する。なお、撮影と動画編集は業務を委託する。あわせて、④びわ湖東北部で活動するユニバーサルスポーツ振興団体へのインタビュー、⑤日本パラスポーツ</p>

	<p>学会への参加、上記の成果公表を目指す。なお、①および②は昨年度も実施実績があり、それらの成功を踏まえ、今年度新たに③から⑤を追加で実施することとした。</p> <p>2. 学生の参画 活動は、聖泉大学人間学部の授業「プロジェクト演習」（多胡ゼミ・木村ゼミ）を履修している学生・教員（計 13 名）が中心となっていく。学生のアイデアを企画に取り入れながら、学生が主体的に進めていくことで、事業の企画運営、広報、渉外に関わる能力の向上も図る。</p> <p>3. 地域住民の参加（参加促進） びわ湖東北部の地域住民や他大学（5 大学）の学生にむけて案内チラシを作成し、参加を呼びかける。地域住民へのチラシの郵送先は、これまでの聖泉大学の公開講座やびわ湖東北部地域連携協議会に参加頂いた方などを中心に郵送する。自治体が発行する広報誌なども活用する。また、年間を通して長浜、米原、彦根の各地域に出向いて出張体験会を行う。</p>
<p>事業計画</p>	<p>5～6 月：事業内容の詳細を検討 7 月～8 月：④ユニバーサルスポーツ振興団体へのインタビュー 9 月～10 月：②ユニバーサルスポーツ体験会の準備 11 月：ユニバーサルスポーツ体験会の実施、⑤日本パラスポーツ学会 12 月～2 月：③動画の編集 1 月：事業の振り返り、事業報告書の作成 年間：①出張モルック実施</p>

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進するために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	10, 11
取組事業 No.	B-3-4-④ びわ湖東北部地域「まちの魅力発信プロジェクト」 やさしい日本語普及活動
事業概要	<p>現在、びわ湖東北部地域（彦根市、米原市、長浜市）には7,600人以上の外国人住民が生活しており（令和4年12月31日現在）、外国人住民の定住化が進み、本地域産業の担い手として欠くことのできない存在となっている。外国人にとって分かりやすい「やさしい日本語」を行政機関をはじめ、地域で普及させることにより、外国人住民への支援を総合的に行うと同時に、日本人住民にも多文化の理解を促し、共に活躍する地域社会の構成員として、多文化共生のまちづくりを進める仕組みを構築する。普及活動として、商工会議所と連携し、企業、団体への啓発活動を行い、「やさしい日本語協力店舗・施設」を募集する。また、地域の住民対象「やさしい日本語」講座を大学（留学生等）と連携し、開催する。さらに留学生や外国人住民、社会福祉協議会等の団体と共催で外国人と日本人の交流イベントを開催する。</p>
事業計画	<ol style="list-style-type: none"> ①やさしい日本語協力店舗・施設の募集 ②やさしい日本語協力店舗・施設募集チラシ、申請書の作成 ③事業者・市民対象「やさしい日本語講座」開催 ④日本人と外国人の交流イベントの開催 ⑤庁内職員対象「やさしい日本語職員研修」開催

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進するために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	8, 11
取組事業 No.	B-3-4-⑤ びわ湖東北部地域「まちの魅力発信プロジェクト」 若者ならではの地域の魅力発信事業
事業概要	<p>びわ湖東北部地域内の若い世代の定住やシビックプライドの醸成をはかるため、同地域内の高校生等をターゲットに、「地域の魅力」や「住みたい、働きたいまち」等をテーマとした座談会を開催する。</p> <p>その中で、学生が感じる地域の魅力についての紹介動画や冊子等を作成し、SNS に投稿することで、広く周知を行う。</p> <p>動画や冊子等の作成にあたっては業務委託を行うとともに、ヒアリングに協力いただいた学生等にも制作の協力依頼を募る。</p> <p>また、座談会を通して出た若い世代の生の声を報告書として取りまとめ、協議会内で周知することで、びわ湖東北部地域全体の発展につなげていく。</p> <p>運営は、地域の子育て世代へのコミュニティ作りや就業支援等で活動されている合同会社 LOCO と、滋賀文教短期大学、彦根市、米原市、長浜市の産官学連携で行う。</p>
事業計画	<p>びわ湖東北部地域内の若い世代の生の声を聴くため、長浜、彦根、米原地域の高校等に対して座談会を行う。</p> <p>座談会では、各校に講師やファシリテーターが出向く形とする。参加者間の意見交流にて、地域の魅力を再発見できる場となり、報告書や動画を通して地域への愛着の醸成を図ることをねらいとする。</p> <p>また成果物（動画）に関しては SNS での発信のほか、WG-B ネットワーク推進事業ならびに成果報告会等で内外に広く公開する。</p>

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

	<p>【実施スケジュール（案）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月または9月 各高校等に訪問、ヒアリング実施 ・10月～1月 報告書や動画等作成・10月～1月 報告書や動画等作成
--	---

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	(取組 4) ネットワーク推進事業
取組事業概要	地域課題に取り組む活動を行う住民・大学生・大学教職員・自治体職員・産業界の人的ネットワークを整備すると共に、各活動団体の定期的な交流会を開くことにより、地域への愛着を持った地域を担う人材を育成する。
活動指標	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。
対応 SDGs 番号	17
取組事業 No.	B-4-1 びわ湖東北部地域キャンパス SDG 大会
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・びわ湖東北部地域連携協議会が主催となって、令和 5 年 11 月 18 日（土）（予定）にメインイベントとして講演会、ワークショップなどを実施するとともに、大学や地域の団体の交流発表会を実施する。 ・SDGs の達成に向けて持続可能な社会をどう実現していくのか、気候変動対応やCO2削減など社会的な課題に対応する講演会やワークショップでびわ湖東北部地域連携協議会の学生が中心となる展開を実施する。 ・11月20日（月）～22日（水）にかけて地域・学生のSDGsアクションパネルの展示や昼休みや夕方の時間帯に大学や周辺地域などを会場に多くの人がSDGsについて知り、考え行動するきっかけとなるイベントを開催する。
事業計画	<p>1. 実施機関（予定）：令和 5 年 11 月 18 日（土） および 11 月 20 日（月）～22 日（水）</p>

	<p>2. 内容 : SDGs シネマ上映、講演会、ワークショップ、事例発表交流会</p> <p>3. 実施スケジュール</p> <p>5月 概要検討</p> <p>8月 実施内容、スケジュール決定</p> <p>10月 イベント広報、開催準備</p> <p>11月 キャンパスSDGs開催</p>
--	---

WG-B 地域コミュニティに活性化事業 2023 年度事業計画

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	(取組 4) ネットワーク推進事業
取組事業概要	地域課題に取り組む人々への愛着が増すよう、団体間の交流促進や意見交換の場を設け、よりよい連携を推進する。
活動指標	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。
対応 SDGs 番号	17
取組事業 No.	B-4-2 びわ湖東北部地域市民活動団体交流プロジェクト
事業概要	<p>【背景】 地域課題の解決には、地域住民と行政等の協働が必要不可欠。 幅広い分野の中でどういった地域課題が存在し、市民活動が行われているのか、様々な主体が相互に理解し、交流する必要がある。</p> <p>【目的】 市民活動団体同士の交流や、行政や地域住民とのつながりを創出する中で、市民活動の更なる活性化を図ため、地域課題に取り組む団体の活動内容を紹介し、交流する場である「つくる未来展」を開催する。</p> <p>【備考】 令和 3 年度に米原市単独で初開催した。 令和 4 年度は、びわ湖東北部地域連携協議会の場を活用し、長浜市や彦根市と連携しながら、広域的な活動を行った。 令和 5 年度は、昨年度の取組をベースとしながら、更なる団体間の交流が生まれるような場づくりを行う。また、SNS を活用するとともに、講演会等も開催しながら、一般市民も参加したくなるような仕掛け作りも行う。</p>

<p>事業計画</p>	<p>【スケジュール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○5月 関係者企画協議（米原市、長浜市、彦根市） ○6月～7月 展示団体募集 ○8月 展示物制作 ○9月～1月 米原市、長浜市、彦根市の3会場で展示会を開催 <p>【展示内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出展者：既に活動している団体 これから活動を予定している団体 行政等の公的な事業者 ○展示場所：米原市、長浜市、彦根市の会議室、オープンスペース等 ○展示期間：各会場3日間程度 ○展示内容：現在の活動内容、課題、今後の予定などのパネル展示 <p>【参考：令和4年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米原会場（米原市役所）：63事業（1,172人來場） 長浜会場（えきまちテラス長浜）：54事業（900人來場） 彦根会場（フロントアリーナHIKONE）：54事業（235人來場） <p>【交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実際の展示物やオンライン上の展示物（ウェブサイト等）を使って、意見交換等ができる環境を創出する。 ○展示期間中に、各団体や個人などに実際に集まっていただき、意見交換や交流ができるような機会を創出する。その際に講演会等も開催し、一般市民の参加したくなるような仕掛けを行うとともに、SNS等を活用した情報発信も積極的に行う。【新規】 <p>【アーカイブ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○つくる未来展の様子や、交流会の様子をアーカイブし、参加できなかった方にも情報を届ける。
-------------	--

WG-C 地域を担う次世代人材の育成 2023 年度事業計画

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・ びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (SDGs をテーマとした共同講義事業)
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学生向けの教育環境の充実を図る。
活動指標	SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。
対応 SDGs 番号	全
取組事業 No.	C-1-1
事業概要	<p>SDGs や地域課題をテーマとし、協議会加盟大学から講師を派遣し滋賀県内の大学生の教育環境の充実を図るための共同科目を開講する。</p> <p>科目概要は次のとおり。(シラバスより)</p> <p>持続可能な開発目標である SDGs (Sustainable Development Goals) とは、2015 年 9 月の「国連持続可能な開発サミット」で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に掲げられた 17 の目標から構成される人間、地球および繁栄のための行動計画である。滋賀県は全国に先駆けて、2017 年 1 月に SDGs を県政に取り込むことを宣言した。本科目ではまず、SDGs とは何か学び、SDGs で掲げる 17 個の目標とその目標達成への実践例なども学ぶことで SDGs への理解を深める。また、SDGs での目標を近江の地で実践していくためにはどのような行動計画を立ててどのように実践していけば良いのかを、グループワークを通してそれぞれが考え、それを皆で共有することで、将来の持続可能な社会の構想実現に寄与するための足がかりを得る。</p>
事業計画	<p>開講…後期(秋学期)集中(10月～12月)</p> <p>単位数…2単位</p> <p>受講対象…環びわ湖コンソ単位互換科目として滋賀県内の大学生が受講可能。</p> <p>授業計画(シラバス抜粋)…</p> <p>SDGs とは何か(担当:長浜バイオ大)</p>

	<ul style="list-style-type: none">・SDGs とは何か・滋賀県におけるSDGs への取り組み・竹生島の現状視察とSDGs の実践（フィールドワーク）・SDGs の5つのP（People：人間）（担当：滋賀文教短期大）・SDGs の5つのP（Prosperity：豊かさ）（担当：滋賀大）・SDGs の5つのP（Planet：地球）（担当：滋賀県立大）・SDGs の5つのP（Peace：平和）（Partnership）（担当：聖泉大）・まとめ（担当：長浜バイオ大）
--	---

WG-C 地域を担う次世代人材の育成 2023 年度事業計画

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (SDGs をテーマとした共同講義事業)
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学生向けの教育環境の充実を図る。
活動指標	SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。
対応 SDGs 番号	4, 11
取組事業 No.	C-1-2 SDGs 単位互換科目 「SDGs と滋賀のグローバル・イノベーション ー近江の暮らしとなりわいー」
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に係る県内大学生の理解を深め、行動を促進するため、環びわ湖大学・地域コンソーシアムの単位互換科目として「SDGs と滋賀のグローバル・イノベーションー近江の暮らしとなりわいー」を実施する。 ・近江の暮らしとなりわいの現場における様々な営みを事例として、持続可能な共生社会の実現に必要な知見を導き出すとともに、ローカルな現場およびグローバルな現場の実践・課題が互いにかかわっているのか、また、その関わりによって、どんな未来が実現できるかについて、外部講師と共に議論する。 ・SDGs 達成に取り組む県内企業や、SDGs 推進に関わる外部講師を招いた講義を提供し、彦根、米原、長浜地域を中心とする学生が参加できるように周知する。 ・令和 4 年度は、43 名の履修があり長浜バイオ大、滋賀文教短期大学、滋賀大学、龍谷大学から 6 名の参加者があった。
事業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実施期間(予定)：令和 4 年 8 月 18 日(金)～20 日(日)(夏期集中講義) 2. 定員：100 名 3. 担当教員：上田洋平(滋賀県立大学講師) 4. 実施スケジュール(予定) <ul style="list-style-type: none"> 6 月 環びわ湖大学・地域コンソーシアムにおける単位互換科目募集開始 6 月中旬 単位互換事業科目履修登録締切 8 月 18 日～20 日 授業実施

WG-C 地域を担う次世代人材の育成 2023 年度事業計画

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (単位互換事業)
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学生向けの教育環境の充実を図る。
活動指標	・単位互換科目受講生を最終年度までに 2018 年度比で 30 名以上増加させる。
対応 SDGs 番号	4, 11
取組事業 No.	C-2-1 単位互換提供科目「滋賀論」の開講
事業概要	<p>環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用し、下記のとおり単位互換提供科目を開講する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目名：「滋賀論」 単位数：2 単位 ・授業概要：滋賀県が持つ独自の風土や歴史文化および地域の個性を生かした地域づくりに関する取組みや実践について解説する。授業形態は、講義とディスカッション (10 回分)、現場を巡るフィールドワーク (5 回分) とする。フィールドワークは、1 日かけて琵琶湖周遊船で各地を巡る予定。
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・日程：6 月 3 日 (土)、6 月 4 日 (日)、6 月 10 日 (土) ・場所：聖泉大学 ・担当教員：森雄二郎 (聖泉大学人間学部) ・対象者：聖泉大学および環びわ互換科目の履修学生 (34 名) ・内容：※以下、シラバス抜粋 <p>6/3①オリエンテーション、②滋賀県の概要、③④⑤滋賀県の歴史と文化 6/4①②③④⑤フィールドワーク (琵琶湖周遊) 6/10①②琵琶湖の環境と湖国文化、③④滋賀県の政策課題と取り組み、 ⑤まとめ</p>

WG-C 地域を担う次世代人材の育成 2023 年度事業計画

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-3-1 びわ湖東北部地域文化・芸術推進プロジェクト ①図書館を活用した若者世代の読書推進事業
事業概要	<p>中学・高校生、大学生などを中心とする若者世代の読書量は、年々減少傾向にある。自ら考える力を培うことができる読書活動の推進は、全国的に課題とされている。また、本市においても、中・高・大と年齢が上がるにつれ図書館の利用は減少しており、若者の読書活動推進は地域の人材育成に関わる課題であると考えられる。</p> <p>この課題解決への方策のひとつとして、びわ湖東北部地域連携協議会の連携大学の学生と協働で、図書館を活用した若者世代の読書を促す機会を創出し、図書館への来館・読書につながる事業をおこなう。</p>
事業計画	<p>9 月～10 月頃 図書館の資料や施設を活用したイベントや展示、啓発の実施</p> <p>内容に応じて、地域で同時開催や巡回など幅を持たせ、様々なアプローチで、若者世代の読書や図書館への興味関心を高める。今の若者の心をつかむ事業を同世代が企画することで、より効果が期待できる。</p>

WG-C 地域を担う次世代人材の育成 2023 年度事業計画

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標	・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	1 1
取組事業 No.	C-3-1 びわ湖東北部地域 文化・芸術推進プロジェクト ②子育て・子どもの読書支援
事業概要	<p>当短大の学科構成を生かし、子育て支援・子どもの読書支援事業を実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みこどもの学習支援勉強相談会 教員・学生による小中学生への学習支援 <p>ドリルから調べ学習まで、図書館の開放も含め実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本・児童文学講演会 <p>本学教員による講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お話し会の実践講習 <p>本学教員による講習と、参加者の意見交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製本教室、本の修理教室 <p>プロの外部講師による製本、修理教室を開催。</p>
事業計画	<p>以下の日程で計画を進める予定です。</p> <p>6 月下旬～ 夏休み開催事業について、報道発表、ポスター・チラシ配布 (図書館、博物館、ホール、公民館、市役所等)、参加申込み受付</p> <p>8 月中・下旬 夏休み事業</p> <p>9 月上旬～ 夏休み開催事業以外について、報道発表、ポスター・チラシ配布 (図書館、博物館、ホール、公民館、市役所等)、参加申込み受付</p> <p>10 月～12 月 講演、教室を実施 (のは 4～5 回実施)</p>

WG-C 地域を担う次世代人材の育成 2023 年度事業計画

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標	・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-3-1 びわ湖東北部地域 文化・芸術推進プロジェクト ④特別支援学級の児童生徒を対象としたコンサート事業
事業概要	<p>びわ湖東北部地域にあるホールで、小中学校の特別支援学級の児童生徒を対象に、小編成のオーケストラコンサートを実施し、質の高い音楽教育を提供する。滋賀県と滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター「おとさぼ」の連携によって実施する。滋賀県では、平成 23 年度からホールの子事業を毎年実施している。小学生や特別支援学校の児童生徒を対象としたびわ湖ホールでの音楽公演であり、令和 4 年度は約 1 万人の子どもたちに舞台芸術に直接触れる機会を提供した。令和 3 年に策定された滋賀県文化振興基本方針 (第 3 次) では、「誰もが文化芸術に親しめる場の提供」が重点施策として掲げられているが、障害や病気等で遠距離の移動が困難といった理由で、ホールの子に参加したくても参加が難しい等の子どもたちにも音楽を届けるために、びわ湖東北部にあるホールでコンサートを実施する。SDGs の 4 「質の高い教育をみんなに」を目的とし、昨年度は彦根市にある盲学校を対象として「さわるオーケストラ」を実施して好評であったが、今回は長浜市の小中学校の特別支援学級の生徒を対象とする。県文化芸術振興課と連携、協議しながら、滋賀大学音楽教育支援センターが特別支援学級の子どもたちの実態に合った、音楽教育プログラムとしても充実した質の高いコンサートを提供す</p>

WG-C 地域を担う次世代人材の育成 2023 年度事業計画

	<p>る。</p>
<p>事業計画</p>	<p>県文化芸術振興課と滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センターが連携して、特別支援学級のニーズに合ったプログラムを制作。10～12月頃を目途に、びわ湖東北部地域のホール（木之本スティックホールを予定。座席数 300）でコンサートを実施する。</p>

WG-C 地域を担う次世代人材の育成 2023 年度事業計画

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-3-2 びわ湖東北部地域 児童・生徒応援プロジェクト ①不登校・ひきこもりプロジェクト
事業概要	<p>不登校やひきこもり状態にある人数が増え続けるなかで、多様な価値観を理解した学生のサポート人材を育成しつつ、教育委員会とも連携して大学内での居場所の開設と不登校生徒の受け入れ要請に応える体制を整える。また、昨年度から連携している滋賀県フリースクール等連携協議会と今年度も連携し、大学が「多様な教育を考え、実践する」ための行政や支援団体とのハブ的な役割を持つことを目指す。</p> <p>具体的には、多様な価値観を持つ人材育成として滋賀県及び近隣県でのフリースクール・デモクラティックスクール実践者を迎え、不登校の実情や生徒の様子、関わり方などを学んだり、学生同士で小中高の経験を通じたディスカッションを行う。また、和歌山県にあるきのくに子どもの村学園への視察も予定したい。ハブ的役割として居場所情報サイト「ひこねの居場所」を引き続き開設し情報発信に努めつつ、協議会との共催で不登校フォーラム (仮) を開催したり、彦根市での不登校児童生徒支援連絡協議会に参画し、地域にける不登校やひきこもりへの理解を深めたい。</p>
事業計画	<p>4 月～</p> <p>「ひこねの居場所」ウェブサイトの維持管理、滋賀フリースクール等連絡協議会及び彦根市社会福祉課不登校児童生徒支援連絡協議会に参画。</p>

	<p>地域連携からの居場所へのニーズに応えられるよう体制を整備する。</p> <p>10 月～ プロジェクト科目として「不登校プロジェクト」を開講し、サポート人材を育成。きのくに子どもの村学園への視察も予定。</p> <p>11 月～ フリースクールネットワークや協議会とも連携し、「不登校への理解を深めるフォーラム」(仮)を開催(近江八幡市での開催を予定)。大学だけでなく、地域にも広く呼びかける。</p>
--	--

WG-C 地域を担う次世代人材の育成 2023 年度事業計画

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-3-2 びわ湖東北部地域 児童・生徒応援プロジェクト ②中学校部活動地域移行支援人材育成講座 (実践編)
事業概要	<p>現在、文部科学省で検討されている学校における働き改革の一方策として、「部活動の地域移行」が挙げられており、移行を担う地域人材の確保が制度の成否を決定することが想定される。</p> <p>本講座では、地域住民を対象として「部活動の地域移行」を担う人材養成講座 (実践編) として開設、学校教育、子どもの成長、子どもの心理、ケガ防止・対応についての学習機会を提供する。</p>
事業計画	<p>① 中学校部活動地域移行支援人材育成講座 (3 回シリーズ)</p> <p>概要) 学校教育、子どもの成長、子どもの心理、ケガ防止・対応についての学習機会を提供する。</p> <p>日程) 令和 5 年 9 月～10 月</p> <p>講師) 大阪体育大学教員</p> <p>講座) 対面 (状況によりオンライン)</p> <p>② 「運動部活動指導認定プログラム」受講サポート</p> <p>概要) 大阪体育大学において開講される「運動部活動指導認定プログラム」を受講し、所定の講習を受講し修了した者に対し、10,000 円を上限に受講料支援を行う。支援総額は 200,000 円とし、修了者が 20 名を超えた場合 200,000 円を修了者数で除した金額を支援する。</p>

WG-C 地域を担う次世代人材の育成 2023 年度事業計画

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標	・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-3-3 びわ湖東北部地域 ICT 教育推進プロジェクト ①子ども統計プログラミング教室
事業概要	<p>令和 5 年 11 月を目途に、小学 5~6 年生とその保護者 15 組程度を対象に楽しみながらプログラミングや統計データ・データサイエンスに触れる教室を開く。統計学習にも役立つデータ検索・分析するためのプログラミング学習を中心としてデータサイエンスや SDGs に触れるワークショップを行う。</p> <p>講師は、総務省主催の子ども統計プログラミング教室の講師を務めた実績を持つ事業者に依頼することで、講義内容の担保を図る。</p> <p>長浜市内の会場で開催する。</p>
事業計画	<p>9 月下旬 HP への記事掲載やチラシ配布等による広報及び受講者募集</p> <p>10 月中旬 受講者募集締切</p> <p>11 月初旬 子ども統計プログラミング教室開講</p>

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-3-3 びわ湖東北部地域 ICT 教育推進プロジェクト ②お話を書いて電子書籍にしよう
事業概要	<p>教育現場に一人 1 台端末が導入されたことを踏まえ、ICT 活用の方法の一例として小・中学生を対象に、電子書籍づくりを実践してもらおう。楽しく執筆できるように、作品はショートショートとし、手法として作家田丸雅智さんの「ショートショート講座」(教育出版 4 年生の国語の教科書にも掲載) を活用する。電子書籍の作り方を学ぶことにより、その後の作品作りや ICT 活用につなげていく。電子書籍講座は初級編と上級編にわけ、それぞれのニーズや作業スピードに応じて、柔軟に対応することにより、電子書籍作成の楽しさを感じてもらおう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ICT を活用した作品作り 2 作品の電子書籍化 3 作品の公開・共有
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・7月下旬 田丸雅智さんによるショートショート講座 ・8月上旬～下旬 <ol style="list-style-type: none"> 1 電子書籍作成講座 初級編 (ボイジャーのロマンサーを活用) 2 電子書籍作成講座 上級編 <p>参考：ロマンサー https://romancer.voyager.co.jp/</p>

WG-C 地域を担う次世代人材の育成 2023 年度事業計画

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。 (2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 4 (地域内進学促進事業)
取組事業概要	幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標	プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。
対応 SDGs 番号	8, 11
取組事業 No.	C-4 びわ湖東北部地域合同大学説明会
事業概要	<p>コロナ禍の終息も見込まれることから、昨年度まで実施していた動画での大学説明会から、対面での合同での大学説明会を実施する。</p> <p>私立 3 大学が中心となり、参画 5 大学の広報担当者との協議を経て、年間 3 回程度、会場ガイダンスを「びわ湖東北部地域連携協議会」のブースを設け実施する。会場はびわ湖東北部地域、びわ湖東北部地域外でそれぞれ調整予定。</p> <p>各々の会場ガイダンスにおいては説明担当者が自分の属する機関のみならず、参画大学すべての説明を参加者の求めに応じて行うこととする。参画大学すべての広報資料を持参することとする。</p>
事業計画	<p>5月下旬 : 3 大学広報担当者打ち合わせ</p> <p>6月上旬 : 5 大学広報担当者打ち合わせ 会場ガイダンス業者との日程、会場調整 (随時)</p> <p>6月下旬以降 : 会場ガイダンス参加 (年 3 回程度)</p> <p>その他 : 必要に応じてリーフレット等作成</p>

WG-C 地域を担う次世代人材の育成 2023 年度事業計画

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 5 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	<p>びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。</p> <p>プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。</p>
活動指標	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-5-1 SDGs 地域人材養成事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・びわ湖東北部地域連携協議会参加校の学生、教職員、小中学校や企業関係者、地域活動の実践者、社会人等を対象に SDGs の普及や実践促進に係る以下の人材養成事業を実施する。協議会参加機関の HP や SNS で広く参加者を募り、SDGs の視点を持ち身近な地域で活躍できる人材を養成する。 (1) SDGs 連続講座 <ul style="list-style-type: none"> ① SDGs シネマ講座 オンライン等を活用し SDGs をテーマにした映画を題材に講座 (4 回) を開催し、意見を共有することで SDGs を自分ごと化して身近な行動を考えるきっかけを提供する。 ② SDGs ワークショップ SDGs 公認ファシリテーター風かおる氏による「(仮) SDGs とわたしを考えるワークショップ」を 3 回開催し、2030 年に向けて SDGs を学びなおすワークショップを実施する。 (2) SDGs 出前講座 県内外の行政機関、教育機関、企業等から依頼を受けて、びわ湖東北部地域連携協議会参加機関から SDGs に係る講師を派遣し講演やワークショップを実施する。
事業計画	<p>○実施スケジュール</p> <p>6 月頃 SDGs シネマおよび風かおる氏と契約</p> <p>8 月頃 SDGs 連続講座の申し込み受付開始 (SDGs シネマ講座および SDGs ワークショップ)</p> <p>9 月～12 月頃 SDGs 連続講座開催 (シネマおよびワークショップ)</p>

WG-C 地域を担う次世代人材の育成 2023 年度事業計画

	<ul style="list-style-type: none">・SDGs 出前講座は、地域や企業等の依頼に応じて随時講師を派遣 6月 環びわ湖大学・地域コンソーシアムにおける単位互換科目募集開始6月中旬 単位互換事業科目履修登録締切8月18日～20日 授業実施
--	---

WG-C 地域を担う次世代人材の育成 2023 年度事業計画

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 5 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	<p>びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。</p> <p>プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。</p>
活動指標	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-5-2 ICT 教育推進教員養成事業 (長浜市教育センター)
事業概要	<p>一昨年度より長浜市 (長浜市教育委員会事務局 長浜市教育センター、教育改革推進室)、米原市 (米原市教育委員会事務局 米原市教育センター)、彦根市 (彦根市教育委員会事務局 ICT 教育推進課) において、アドバイザー (株式会社わけわけ代表取締役) の支援を受け協議し、作成した実施要項および昨年度のカリキュラム (年 6 回開催) に基づき、3 市が任命した各市 10 名程度の教員が本講座を受講してきた。これをもとに、GIGA スクール構想のねらいや ICT を活用した先進地の授業例や ICT の効果的な活用について学んだ上で、研修講師としての力量を身につけるべく取り組みを進めてきた。それをもとに、今年度は ICT 教育推進教師として授業を公開し、得た学びを広めることで地域内の ICT 教育の推進を目指す。</p>
事業計画	<p>5 月 各市担当者打合せ</p> <p>7/26 第 1 回講座</p> <p>8/7 第 2 回講座 ※第 1、2 回は、滋賀文教短期大学で開催予定</p> <p>9/28 第 3 回講座</p> <p>10/26 第 4 回講座</p> <p>1/16 第 5 回講座 ※第 3～6 回は、オンライン開催</p> <p>1/25 第 6 回講座</p>

WG-C 地域を担う次世代人材の育成 2023 年度事業計画

	2/15 第7回講座 ※最後は、集合研修とし、会場は未定
--	------------------------------

WG-C 地域を担う次世代人材の育成 2023 年度事業計画

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 5 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	<p>びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。</p> <p>プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。</p>
活動指標	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	4, 11, 13
取組事業 No.	C-5-3 保育・教育者人材養成「小児救急法」講習
事業概要	<p>小児と乳児、および成人のための CPR (心肺蘇生法)、AED (自動体外式除細動) とその他の応急手当 (ファーストエイド) を習得する、MEDIC First Aid の「チャイルドケアプラス™・コース」を開講することで、当地域の保育や教育に従事する人材の安全に関する知識・技能の向上を図り、WG-B の課題解決を目指す。</p> <p>「チャイルドケアプラス™・コース」は、家族はもとより、学校施設、保育者、スポーツ・コーチなど、子どもたちの健康上の緊急時に対応しなくてはならない人々に最適な講習プログラムである。</p> <p>昨年度に引き続き実施を計画するが、今年度は地域の保育人材の開拓という課題解決にも資するような事業とする。近年の全国的な保育や教育分野の志願者の減少という観点から見ると、WG-B の課題である「びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実」においては懸念すべき状況と言える。本講習をキャリア教育の一環としても活用し、保育・教育分野に興味を持つ人材の開拓という課題解決の一助とする。</p>
事業計画	令和 4 年度に引き続き、対象を現役の保育従事者に加え、未来の保育人材の養成という観点から、保育士養成課程で学ぶ大学生及び保育・教育分野を目指す高校生とする。

	<p>令和 4 年度の開講実績（19 名）を参考に、1 回の定員は 24 名とし、開催も高校生が参加しやすい夏休みと春休みの 2 回に設定する。1 名の講師に対し 12 名の受講者という規定に基づき、講師は、大阪 YMCA の林健児郎氏（チャイルドケアプラスTM・トレーナー）と、滋賀文教短期大学教授の松本秀章氏（チャイルドケアプラスTM・インストラクター）を招聘する。</p> <p>多くの方の受講を促し、地域に有益な人材を輩出するために、受講料補助を行う。</p>
--	--

WG-C 地域を担う次世代人材の育成 2023 年度事業計画

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 6 (共同 FD・SD 事業)
取組事業概要	びわ湖東北部地域の共同教育事業の確立にあたり、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会 (共通 FD/SD) を設ける。
活動指標	共同 FD/SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4, 1 1
取組事業 No.	C-6-1 地域を担う次世代人材の育成に向けた共同 IR 事業の開発
事業概要	<p>彦根・長浜地域を中心とする地域性を加味した人材育成において、教育機能と就業との関連性の調査・分析を目的とした共同 IR 事業を行う。</p> <p>今年度は、従来の調査を並行しつつも、4 年間にわたる調査結果をまとめ、当該地域における大学教育および人材育成の成果と課題を明らかにし、今後の発展に向けた提言を行う。ここで得られた成果は、本事業の最終ゴールである若者の地域定着に必要なことやベンチマークとなる要素の探索を深めていくことに繋げる。</p> <p>これらの探索プロセスと同時に、本事業に関わるメンバーが大学 IR に関する専門性を高め、教育改善・研究活動等を促進し、次世代を担う人材育成により大きく寄与することも目指していく。</p> <p>①共同 IR 運営会議： 心理・教育・IR 等に関わるメンバーを中心に、調査の方向性や企画内容を決定し、分析項目や調査方法などの計画やデザインならびに共同体制におけるデータ管理方法・規定などを決定する。</p> <p>②情報収集および調査： これまでの結果を踏まえ、今年度も継続的に調査を進める。教育と地域の接続に関わり、かつ FD/SD の取り組みに還元できる指標を探索する。時期は 6 月中旬頃から開始し、参加校による共通項</p>

	<p>目の整理・データ収集、web アンケートやインタビューなどの量的・質的データの収集を目指す。</p> <p>③人材の高度化： 本事業の発展を推し進めるため、事業に関係するメンバーがより適切な調査企画・デザイン・解析スキルを持つよう、IR に資する技能開発や研修等に適宜参加し人材の高度化を図っていく。</p> <p>④分析結果の共有と事業成果の公表： 調査結果をまとめ、共同 IR 事業の意義や今後の改善に向けた情報共有の場（発表会）を設定する。また、BI ツールを活用した共通システム運用の実現可能性を踏まえ、分析結果の共有方法についてパイロット試験を行う。</p>
<p>事業計画</p>	<p>① 共同 IR 運営会議の開催 共同 IR の実施に向けた企画・運営を行う（年間を通して随時実施）。</p> <p>② 情報収集と整理・解析 運営会議で決定した調査企画に基づく情報収集とデータ整理を行い、本事業のコンセプトに資する解析を行う（年間を通して随時実施）。なお、データ整理に関しては、BI ツールの利用可能性を視野に入れながら進めていく。</p> <p>③ 共同 IR による成果報告 共同 IR 事業の開発を目指し、その成果をまとめ発表・公表を行う（年 1 回程度）</p>

WG-C 地域を担う次世代人材の育成 2023 年度事業計画

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 6 (共同 FD・SD 事業)
取組事業概要	びわ湖東北部地域の共同教育事業の確立にあたり、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会 (共通 FD/SD) を設ける。
活動指標	共同 FD/SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4,
取組事業 No.	C-6-2 共同 FD・SD 研修会
事業概要	<p>【C-6-2①】 聖泉大学 FD 研修会 これまでに、大学設置基準は幾度と改正をされ、特に 1991 年には大学設置基準の大綱化では、各大学の自主的な取り組みを尊重し、さらには多種多様な学部設置のきっかけとなった。本講習では、大学職員であれば身に付けておきたい知識として、大学設置基準の経緯・令和 4 年度改正について学ぶ場を提供する。</p> <p>【C-6-2②】 滋賀文教短期大学 SD 研修 教育の質向上を図るため、プラットフォーム参加校の教職員を対象とした研修会を実施する。</p> <p>【C-6-2③】 聖泉大学 SD 研修会 彦根市・長浜地域の共同教育事業の確立にあたり、プラットフォーム参加の教育の質向上を図ることを目的として、共同 FD 研修会を開催する。</p> <p>【C-6-2④】 長浜バイオ大学 SD・FD 研修</p>

	<p>教育の質向上を図るため、プラットフォーム参加校の教職員を対象とした研修会を実施する。</p>
<p>事業計画</p>	<p>【C-6-2①】 聖泉大学 FD 研修会 6 月：日程・講師選定・打合せ・ポスター作成 7 月：ポスター配布・受講者募集・受付 8 月：「改正大学設置基準に伴う」合同研修会 実施 9 月：実施後のアンケート集約 10 月：振り返り</p> <p>【C-6-2②】 滋賀文教短期大学 SD 研修 演 題：未定 講 師：未定 日 時：2023 年 9 月（予定） 方 法：未定 ※滋賀文教短期大学 SD 委員会において、事業計画（講師、日程等）を決定する。</p> <p>【C-6-2③】 聖泉大学 SD 研修会 演 題：調整中（6 月中には決定予定） 講 師：調整中（6 月中には決定予定） 日 時：調整中（6 月中には決定予定） 場 所：聖泉大学 4 5 5 教室 または 遠隔（ZOOM）開催 その他：当日不参加者への対応として、収録したものを関係者に限定して視聴できるよう配信する。</p> <p>【C-6-2④】 演 題：未定 講 師：未定 日 時：2023 年 9 月（予定） 方 法：未定 ※長浜バイオ大学 FD 委員会において、事業計画（講師、日程等）を決定する。</p>

WG-D 広報活動・ホームページ管理 2023 年度事業計画

WG名称	D. 広報活動・ホームページ管理
取組事業名	取組 1 (広報活動)
対応 SDGs 番号	該当なし
取組事業 No.	D-1-1 広報活動
事業概要	<p>昨年度までは PF の周知拡大のために計画的・戦略的なメディアへの情報発信を主軸に広報活動を展開してきた。HP へのアクセス数、問合せ数からも一定の効果があつたと考えている。2023 年度がびわ湖東北部地域連携プラットフォーム (PF) 事業が開始して 5 年目 (評価年度) となり、この 5 年間で PF がどのように地域に貢献してきたかということを発信する必要であると考え、以下の広報活動を実施する。</p> <p>①地元情報誌への本協議会事業の掲載 地元情報誌 (ぼてじゃこ、KONKI クラブ等を検討中) にて本協議会の事業成果を取材、掲載する。</p> <p>②HP を利用した情報発信 HP を改修し、より活動実績・トピックが伝わりやすくなるようにする。</p> <p>③連携機関の在庫数に応じた本 PF 事業紹介リーフレット、クリアファイル、封筒等の再発行を行う。</p>
事業計画	<p>① 9 月実施予定の成果発表会まで、もしくは 3 月実施の成果報告会・外部評価委員会までの掲載を目指す。</p> <p>② 6 月末より各 WG ならびに業者との検討を開始する。</p>

WG-D 広報活動・ホームページ管理 2023 年度事業計画

WG 名称	D. 広報活動・ホームページ管理
取組事業名	取組 1 (広報活動)
対応 SDGs 番号	該当なし
取組事業 No.	D-1-2 2022 年度成果発表会
事業概要	びわ湖東北部地域連携協議会の取組事業及びその成果を広く知ってもらい、さらに地域の活性化を促すために、地域一般住民に向けた成果発表会を開催する。
事業計画	<p>2022 年度成果発表会（一般向け）を下記日程で開催する。</p> <p>日程：2023 年 9 月下旬</p> <p>内容：2022 年度取組事業の成果発表を中心に対面形式で実施する。</p> <p>6 月より、ゲストスピーカー選定に入る。</p> <p>また、昨年度より会場規模を拡大し、参加者の増加に注力する。</p>

WG-D 広報活動・ホームページ管理 2023 年度事業計画

WG 名称	D. 広報活動・ホームページ管理
取組事業名	取組 2 (協議会ホームページ管理)
対応 SDGs 番号	該当なし
取組事業 No.	D-2-1 協議会ホームページ管理
事業概要	びわ湖東北部地域連携協議会の取組事業の進捗及びその成果、地域に向けたイベント情報を広く発信するために、ホームページの管理・運営を行う。
事業計画	<p>○ホームページ(HP) の管理・運営</p> <p>協議会 HP のリニューアル</p> <p>2023 年度は下記の事項について協議し対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施成果の見せ方を検討する。 ・その他、ユーザーや協議会員から寄せられた改善要望への対応